

1 ヒンズー国家——歴史のない社会

- 1) インダス文明 (モヘンジョダロなど) の崩壊 インドアーリアンの侵入
- 2) リグ・ヴェーダ(BC1200) (天啓文学) ウパニシヤッド (奥義書) (哲学)
バラモン (祭祀・呪術) カースト 転生輪廻 ヴァルナ (色)
- 3) 新宗教の時代(BC6)——バラモンの権威・カーストの否定、都市を基盤とする運動
① 仏教 ブッダ 思索・修行 出家 王を礼拝しない サンガ (僧伽)
② ジャイナ教 マハーヴィーラ 徹底した教義と戒律 不殺生 商人
- 4) ヒンズー教の成立(13.3%) すべてを取り込む (ブラフマー、シバ、ヴィシュヌ)
〔時間〕大循環 人間の時間①クリタ・ユガ(172万8千年)正法の時代 (正義と義務)、②トレーター・ユガ (129万6千年)、3本足のダルマ、③マドヴァーバラ・ユガ(86万4千年)2本足のダルマ、④カリ・ユガ (43万2千年)一本足のダルマ。 神の時間: 1カルパ=1000マハーユガ(43億2千万年)、ブラフマーの一昼夜=2カルパ(86億4千万年)、ヴィシュヌの一昼夜=ブラフマーの百年 (311兆400億年)

目標①生活と法 (ダルマ) 「マヌ法典」 リナ (聖仙、祖霊、神々への債務弁済)

四姓、四住(学習期、家住期、林住期、遊行期)、16の通過儀礼、女性蔑視

②実利 (アルタ) 「アルタ・シャーストラ」 哲学、ヴェーダ、経済学、政治学

ダルマとカーマの維持 社会還元 处世哲学

③愛と性 (カルマ) 「カーマ・スートラ」、64芸 (声楽、器楽、舞踊) 性愛

「マハーバーラタ」 「ラーマヤナ」

2 仏教と都市

- 1) マガタ国 インド北部強国 (BCVI) 王舎城 1,87km² 舎衛城 1,45km² 祇園精舎
- 2) マウリヤ朝(BC317年頃)アショカ王(BC232) ダルマの政治「各宗教は尊敬しあえ」
- 3) クシャン朝 ガンダーラ美術 仏像 (ヘレニズムと仏教) 大乘仏教 石窟 敦煌
- 4) ラサ ボタラ宮 チベット仏教 政治+宗教
- 5) ブータン ゾン
- 5) パガン(1044~1297)440万塔 6) タイ 7) ボロブドール(750~850)
- 8) アンコールトム(9~15世紀) アンコール (梵語) 都市。トム (城壁) 4km四方。

水利都市 バライ(2×8k)貯水と排水 スールヤヴァルマンII (1113~50) ジャバルマンVII ((1181~1220)

3 ヒンズーの都市——川中心、寺院中心 方形の池 物乞い、

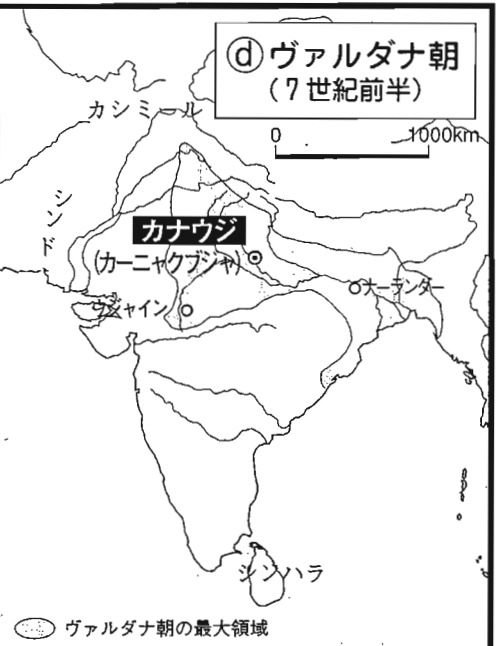
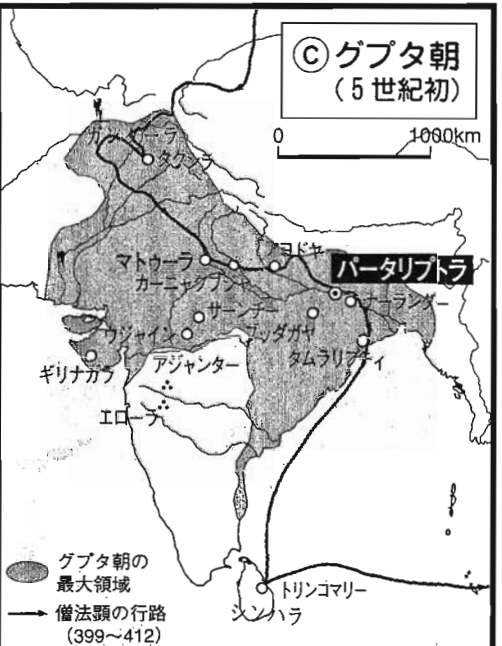
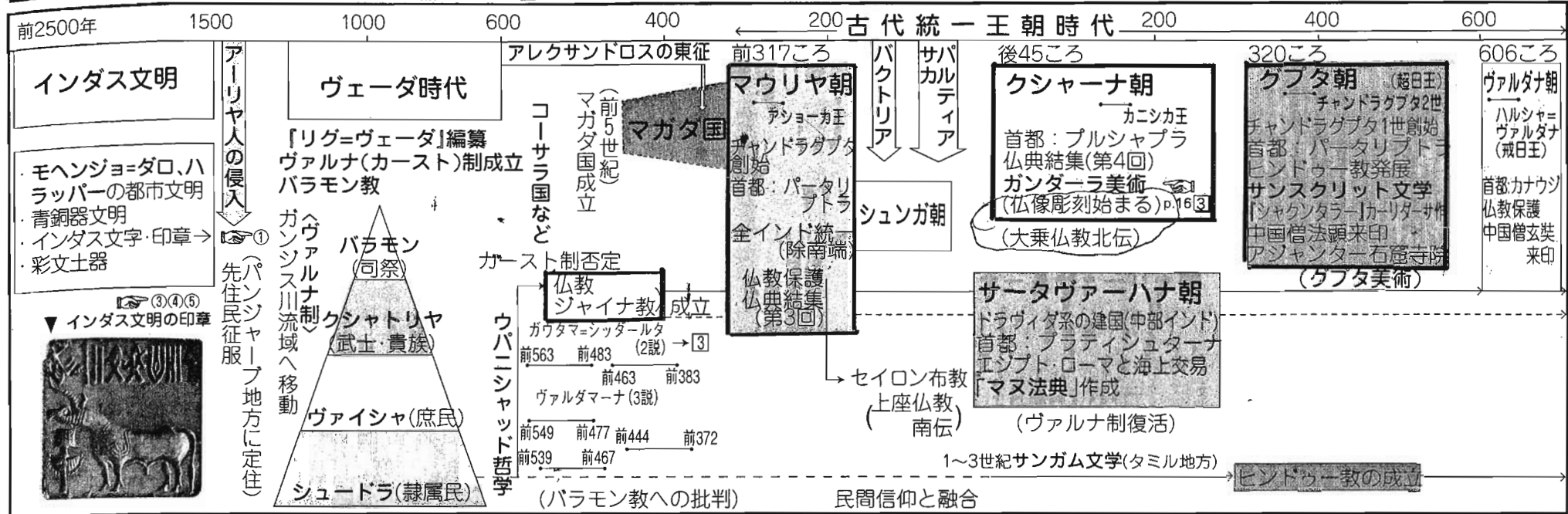
- 1) バラナシ (ベナレス) ——生と死の同居 ガンガー ガート 沐浴 焼き場 輪廻
- 2) チェンナイ (マドラス) ミーナクシ寺院 ゴプラム (楼門) 沐浴場 千柱堂
- 3) ハンピ ヴィル・パ・クシャ寺院 ハンピ・バザール
- 4) カジュラホ 5) スィーク教 アムリトサル 黄金テンプル

4 イスラムの侵入 12世紀末 ムガル帝国(1526~1858) アクバル(1556-1605)

- 1) タージ・マハール(1631~51) シャー・ジャハーン
- 2) デリー 城と街 ヒンズー+イスラム+西欧

2 古代インド土朝の変遷

p.2 1 p.121 4



アンコール王の行進

アンコール・トムは、9～15世紀までカンボジアに栄えたアンコール朝の都城。1辺3kmの正方形で、ラテライト（紅土）のブロックを積み上げた、高さ8mの城壁に囲まれていた。東西南北の各辺の中央に巨大な城門が設けられ、東側にもうひとつ、「勝利の門」と呼ばれる城門があった。それらの城門には、四面の巨大な人面が刻まれていた。

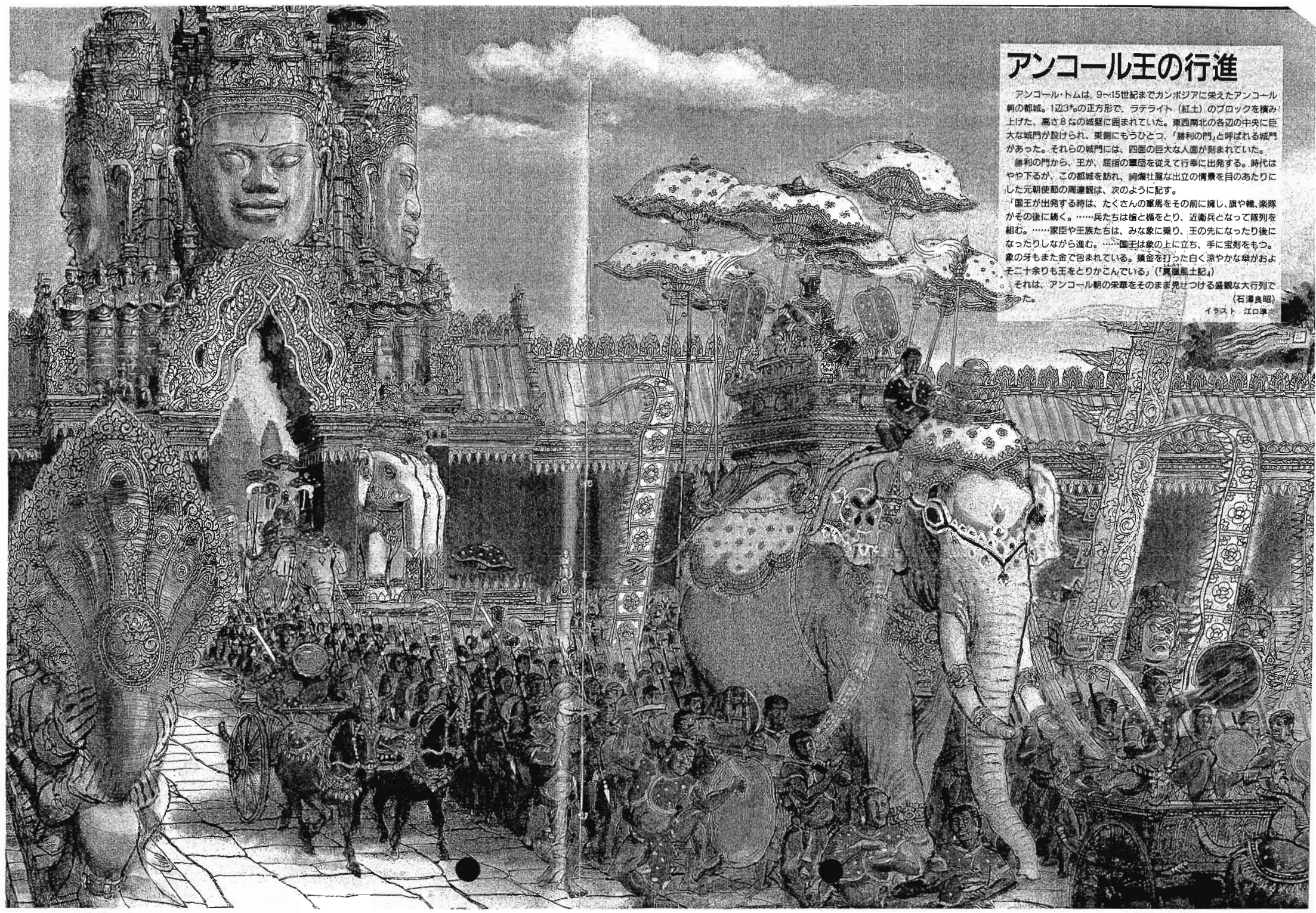
勝利の門から、王が、屈指の護国を従えて行幸に出発する。時代はやや下るが、この都城を訪れ、崎嶇壮麗な出立の情景を目のあたりにした元朝使節の周達觀は、次のように記す。

「国王が出発する時は、たくさんの軍馬をその前に揃し、旗や幟、衆隊がその後に続く。……兵たちは槍と楯をとり、近衛兵となって隊列を組む。……家臣や王族たちは、みな象に乗り、王の先になったり後になったりしながら進む。……国王は象の上に立ち、手に宝剣をもつ。象の牙もまた金で包まれている。鍔金を打った白く涼やかな傘がおよそ二十余りも王をとりかこんでいる。」（真臘風土記）

それは、アンコール朝の栄華をそのまま見せつける盛観な大行列であった。

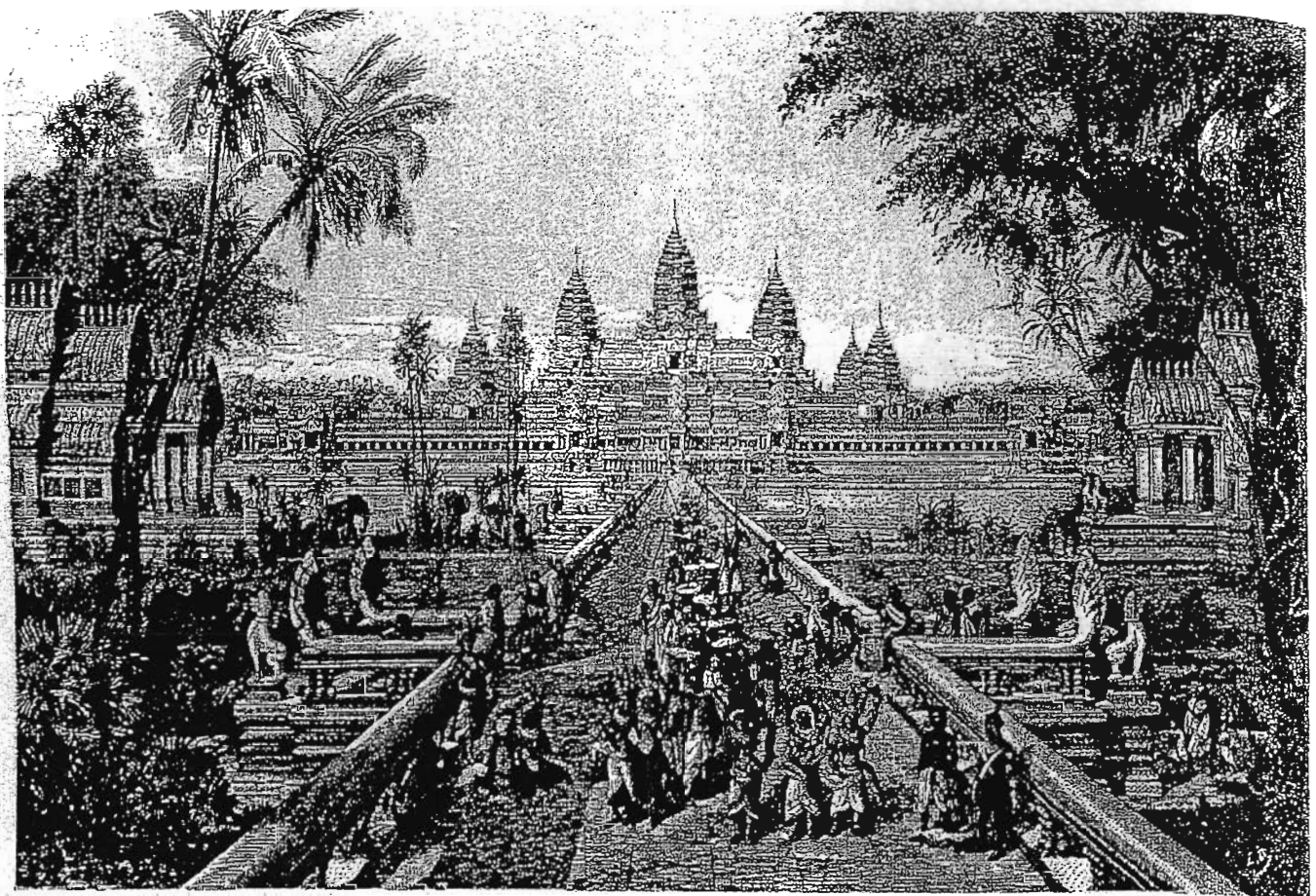
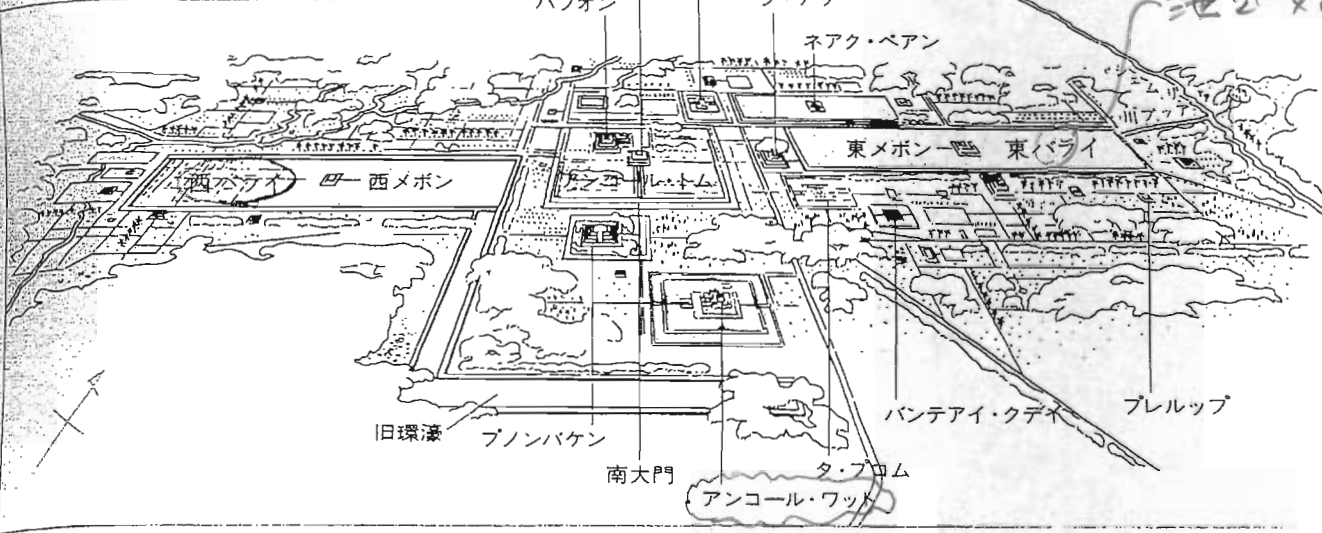
（石澤良昭）

イラスト 江口洋

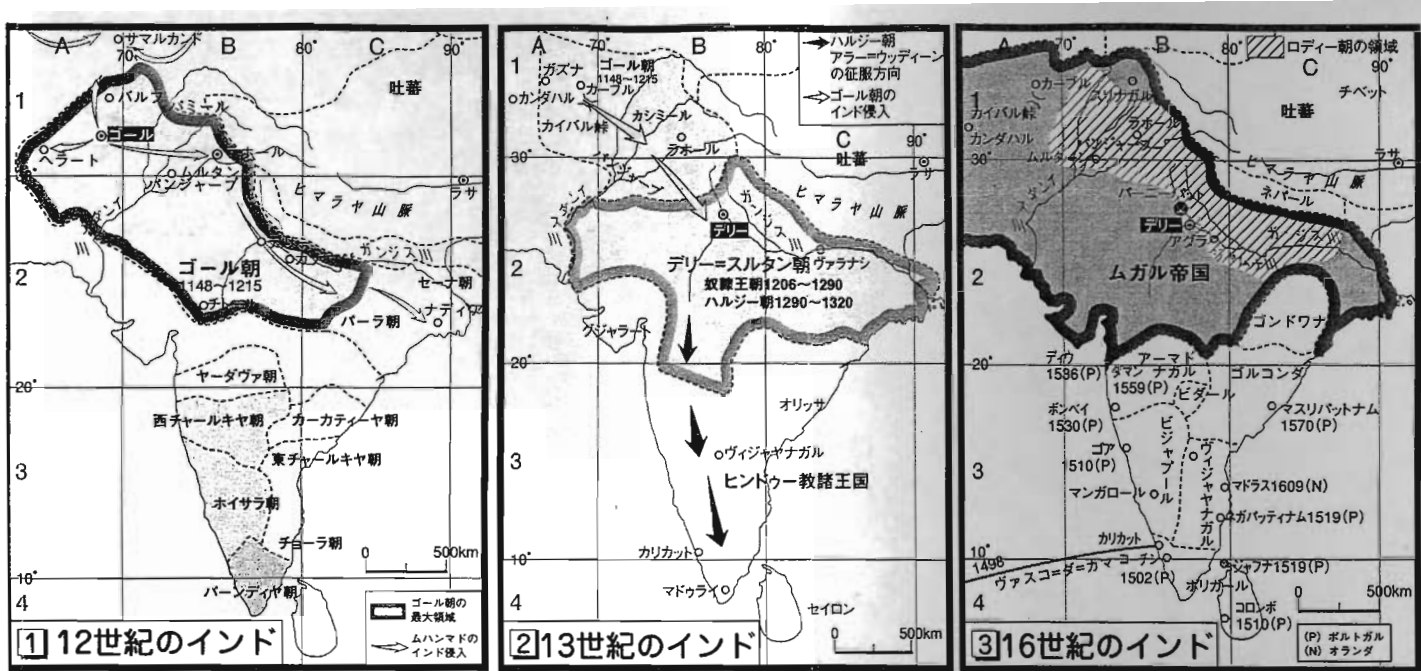


トム

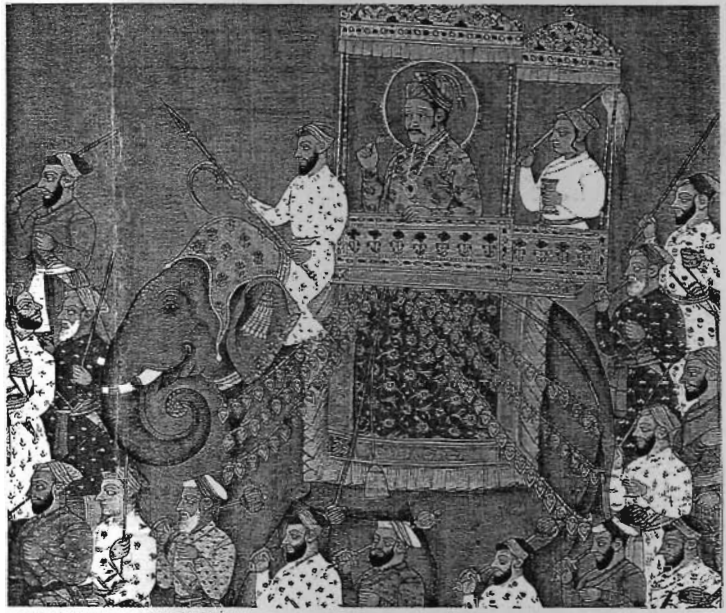
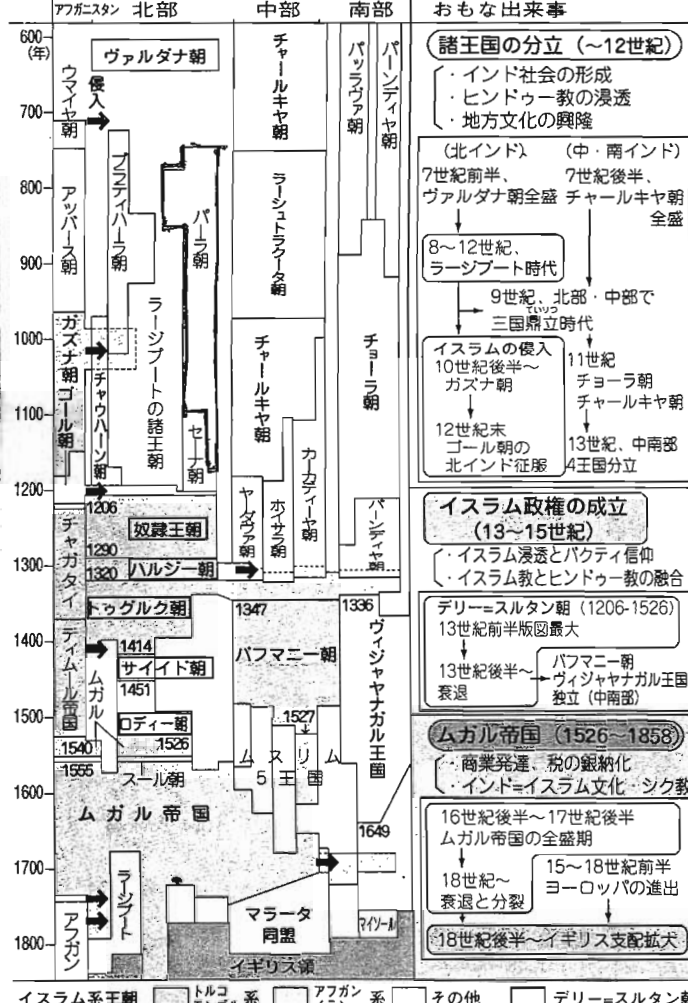
アンコール都城—水の帝国



アンコール・ワット西参道から参詣する人たち 19世紀に描かれた想像図
(VOYAGE AU CAMBODGE, 1880)



4 インドの王朝変遷とイスラム勢力の浸透

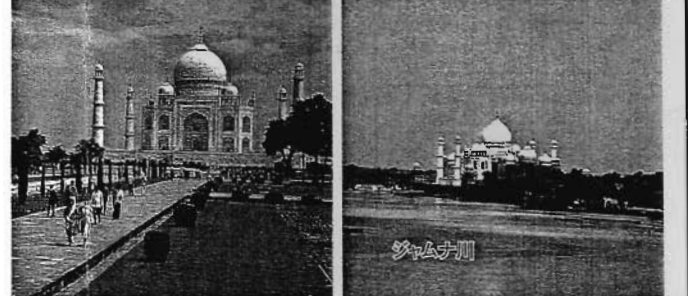


▲ ①象に乗って行軍するアクバル大帝 (ムガル絵画) ムガル帝国第3代の王。即位したときは、デリー・アグラの周辺とパンジャブ地方のみを支配するだけだったが、強力に支配を拡大し、デカン高原北部から北インド一帯を統一した。絵は、ムガル絵画のミニチュールでイラン文化の影響を受けている。(パリ国立図書館蔵)

エピソード

②ムムターズ=マハルとタージ=マハル廟 (アグラ)

17世紀にムガル皇帝シャー=ジャハーンが亡き愛妃ムムターズ=マハルのためにこの廟の造営を始め、完成に22年を要した。しかし愛妃との間に生まれた皇子たちが皇位継承で争い、皇帝は廟の完成前に皇子の一人アウラングゼーブに皇位を奪われた。アグラ城に幽閉された皇帝は、死後愛妃の眠るこの廟に葬られた。



▲ タージ=マハル正面とアグラ城から見たタージ=マハル (右) アグラ城に幽閉されたシャー=ジャハーンは、ジャムナ川越しに愛妃の眠る廟を見て涙した。

5 ムガル帝国の政治・社会のしくみ

行政機構			社会	
中央	ミール=パフシ (軍事担当)	宰相(ワジール)	皇帝	貴族
		サドル (司法担当)	家臣	その他の軍人・一般官僚
州	太守(一般行政担当)	ディー=ワーン(収税担当)	ムガル(支配層)	騎兵数に応じ、66段階の位階に分れている(マンサバダール制)
県	ファウジダール (県長)			
郡	アミール (郡長)			
村	チャウダリー(首長)		在地領主層 (ザミーンダール)	村落共同体
土地	直轄領 (ハク)	給与地 (ジャギール)	農民	

軍人・官僚に割り当てられた。土地の額に相当する俸給が与えられ、所有・世襲化禁止。